

# imoto ナース通信

2019年3月  
第6号

## 地元ナースは地域包括ケア時代のフロントランナー



### ●すべての人々に地域包括ケアを

国が推進する地域包括ケアシステムは、「高齢者」が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることを目指しています。一方、看護の世界では、その一歩先を行く地域包括ケアシステムが提唱されています。日本看護協会は「看護の将来ビジョン」（平成27年度公表）において、地域包括ケアシステムとは、療養する高齢者だけでなく子どもを産み育てる人々、子どもたち、障がい

のある人々などを含む「すべての人々」の生活を地域で支えるものとしています。

実際、「子育てと親の介護の同時進行」「がんと向きあいながら、親の介護も」「障がいを持つ子どもを支えてきたが、自分も高齢者に」等、世代横断型の課題が顕在化してきています。また、都市住民の遠距離介護の問題は、地方の一人暮らし高齢者や老々介護の課題と表裏一体といえるでしょう。

### ●地元ナースは地域包括ケア時代のフロントランナー

これらの課題に対応していくためには、地元の医療福祉機関の充実が不可欠です。なかでも、住民の身近な存在である地元ナースの活躍が望まれます。本学が平成26年度から取り組んできた山形発・地元ナース養成プログラムは、まさに地域包括ケア時代のフロントランナー（新しい分野や領域を切り開く人のこと）を養成してきたといえるでしょう。

平成26～30年度の5年間に渡る山形発・地元ナース養成プログラムにより、地元医療福祉を強化した大学教育の方法や小規模病院等看護職の学び直しの教育プログラムの開発が進んでいます。小規模病院等に勤務していても大規模病院看護職と同水準の看護研究ができる相談・支援事業も軌道に乗ってきました。大学と遠方の小規模病院等を簡便・低価格で結ぶインターネットを確実に活用する方法の目途も立ちました。さらに、大学教員と小規模病院等看護職の相互理解を促進する人事交流についても、実現可能なプログラム開発を進めています。

何より、私たち教員も山形県内の小規模病院等の皆様の奮闘に触発され、真の意味での地元医療福祉の視野が広がり、深まってきています。

### ●地元ナースは新たな段階へ

今年度末で文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムの補助金は終了します。しかし、山形発・地元ナース養成プログラムで学んだ学生や小規模病院等看護職が活躍するのは、これからが本番です。新年度には、大学として新たな枠組みによる地元ナース事業を開始し、卒業生や修了生を支えることはもちろん、新しい学生や現職等の皆様に向けたプログラムを開始する予定です。また、様々な取組を有機的に連携させたいと考えています。

新たな枠組みは、まとめ次第、大学ホームページ（<http://www.yachts.ac.jp/>）に掲載します。これからも地元ナースへの応援を宜しくお願いします。

看護学科教授（山形発・地元ナース養成プログラム事業推進責任者） 菅原 京子



# 地元ナースフォーラム

## ～大学と小規模病院等の協働による『地元ナース』の養成～

今年度が「山形発・地元ナース養成プログラム」の最終年度となることから、平成30年10月27日(土)に、これまでの取組の成果の報告や大学と小規模病院等との重要性についての理解を深めていただくための、地元ナースフォーラムを開催しました。



前田学長



玉木健康福祉部長 様



宇野専門官 様



菅原事業推進責任者

当日は、県内外から看護系大学関係者や医療施設関係者、そして大学生や高校生など、合わせて170余名からのご参加をいただきました。

学長の挨拶の後、県健康福祉部長の玉木様や文部科学省の宇野様からのお話、菅原事業推進責任者からの成果報告があり、上記テーマでシンポジウムを行いました。

シンポジウムでは、本プログラムに参加された4名の方々から事例報告を頂き、山形県町村会会長の高橋最上町長様と日本看護協会川本常任理事様のご講演の後、フロアを交えて意見交換を行いました。参加された方々からは、「地元ナース養成プログラムに興味を持てた」、「大学と小規模病院の取組に興味を持てた」など、本プログラムに対する今後の期待への声をたくさん頂きました。

### 【事例報告】

1. 総合看護学実習I・地元医療福祉コース実習の経験と学び  
山形県立保健医療大学看護学科4年 五十嵐崇登 氏
2. 地元ナースを目指した理由と現在の看護活動  
至誠堂総合病院看護師 須貝ゆきの 氏
3. リカレント教育を受講して思う地元密着の看護  
小国町立病院看護師 三須 千春 氏
4. 人事交流を通して考える地元ナースの役割  
山形県立保健医療大学看護学科助教 齋藤 愛依 氏



### 【ご講演】

#### 「地元ナースを目指す若者への期待」



高橋 重美 様  
(山形県町村会会長 最上町長)

最上町での健康と福祉のまちづくりと人材育成について、熱く語ってくださいました。

#### 「小規模病院等看護職の継続教育について」



川本利恵子 様  
(公益社団法人日本看護協会 常任理事)

看護専門職としての責務、自律性について、継続教育の重要性について、分かりやすくお話くださいました。

○指定発言 信夫 松子 様 (遊佐病院副院長兼看護部長)

看護管理者の立場から、職員の継続教育の環境を整えること、人材育成の視点についてお話くださいました。

## 地元で活躍する看護師



### 「地域に信頼される地元ナースを目指して」

川西湖山病院 看介護部長 長谷部 まゆみ

川西湖山病院は「地元ナース養成プログラム」に初年度から参加しています。当院は医療療養病床109床で、200床の介護老人保健施設と訪問看護ステーションを併設しています。「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」という理念のもと、地域の方々に信頼される施設を目指し活動しています。看介護部は、名前の通り、看護と介護の融合を実践し、ケアの質向上に努めると同時に、慢性期や在宅看護の役割の理解と、役割を果たせる人材育成を模索してきました。また、看護学生の実習の受入れを願っていましたので、「地元ナース養成プログラム」のお話を頂いた時、まさに当院のために出来た！と喜んだことを思い出します。大きな期待を持ち参加し、結果、多くの学びや経験、多岐にわたるご指導ご支援があり、小規模病院で働く看護師の自信とやりがいに繋がり、目標であった看護実習生の受入れをも行うことが出来ました。内1名の方が当院を選んで下さり、春から一緒に働けることを大変嬉しく思っています。

看護師2年目に父が病気になり、5年ほど入退院を繰り返しました。点滴や処置が自宅で実施できることに「看護師で良かった」と父は喜んでくれました。まだ訪問看護がなかった時代、交代勤務の中、連日の処置は困難な日もあり、正直誰かに委ねたい思いもありました。何年か後に、訪問看護ステーションで働いた時は、違う視点で、在宅看護の重要性や奥深さに触れ「家族以外だから出来ること」など看護の幅広さを感じたように思います。高畠町で生まれ育ち、高校は米沢市、看護学校は山形市、就職は米沢市、川西町に嫁ぎ転職も川西町とほぼ置賜地域で生活しています。そのような私が、平成29年～30年、新規施設開設のため宮城県仙台市に行ってきた。初めて尽くしに右往左往し「自分には無理だ。他の人の方が上手くやれたのではないかと落ち込む中、ふと目を向けた先のカレンダーに「涙を流すときは涙をながしながら、恥をさらすときには恥をさらしながら、口惜しいときにはひとり歯ぎしりを咬んでさ、黙って自分の道を歩き続けよう、愚痴や弁解なんていくら言っても何の役にも立たないもの」との文章。



看護学生の皆さん、素晴らしい環境の中で多くの学びと出会いがあることでしょう。皆さんとの出会いに私達も刺激を受け新たな学びをしています。視野を広くし、変化に対応し、学びを実践に活かし、縦横無尽に活躍されることを願っています。

# 看護研究発表会

平成30年度は「山形発・地元ナース養成プログラム」事業の最終年度となり、事業期間中に看護研究相談・支援に携わらせて頂いた看護研究の発表会を開催しました。小規模病院等における看護研究の成果を、県内の小規模病院等の看護職の方々にお伝えする機会になりました。

約85名の方がご参加くださいました。アンケートから「同規模の病院であり、抱えている課題も似ているところがあるので参考になった。」「他病院での取組を知ることができてよかった。」等の、好評価を頂きました。臨床現場の課題を解決する手段や根拠として、看護研究する意義が少しずつ深まった発表でした。今後の看護研究の基盤として役立ててほしいと思います。

## 【第1群】 座長：尾花沢病院 田中富美子さん

- 長岡医院 小嶋 和美さん  
災害時・緊急時の活用を目指した透析バックの評価
- 川西湖山病院 榎 やちえさん  
当病院におけるスキンケアの実態と学習会の効果
- 町立真室川病院 黒坂真智子さん  
身体拘束に対する看護師の意識変化～認知症ケア加算導入前後の比較～
- 山形県立河北病院 外岡 佑貴さん  
パンフレット・術前訪問による情報提供が患者へ与える影響



## 【第2群】 座長：山形県立河北病院 柳沼 明美さん

- 尾花沢病院 小屋 聡美さん  
アルツハイマー型認知症患者へなじみの暮らしを試みて～趣味と遊びを生活に取り入れたケア～
- 公立高島病院 佐藤裕美子さん  
看護師とリハビリでのベッドサイドFIM評価による情報共有
- 天童市民病院 小山田智里さん  
踵部おむつポリマークッションによる除圧効果と褥瘡発生～ケアの見直しから褥瘡発生軽減を試みて～
- 最上町立最上病院 菅 倫子さん  
外来通院している自立した高齢者の服薬状況の実態



## 【ポスター発表】

- 山形県立河北病院 阿部 恭子さん  
地域包括ケアシステムに対する外来の現状と課題
- 山形県立河北病院 和田 えみさん  
緩和ケア病棟における患者と家族への在宅療養に向けた看護師の関わり

他 6題



## ● 編集後記 ●

山形発・地元ナース養成プログラム事業も一区切りを迎えます。現場には、まだまだたくさんの素敵な看護師さん達がいらっしやいます。皆さんをご紹介できないのが残念です。機会がありましたら、ご紹介していきたいと思ひます。

編集・発行



山形県立保健医療大学  
看護実践研究センター

〒990-2212 山形県山形市上柳260番地  
TEL/FAX 023-686-6614  
<http://www.yachts.ac.jp/jimoto/>